

# 臨床実習Ⅱ：総合歯科学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 福德 暁宏 講師

## 1. 教育成果（アウトカム）

基礎歯科医学、臨床歯科医学で学んだ知識を整理、統合し、臨床実習を通して歯科医療の実践に必要な知識・技能・態度および思考力を身につける。

## 2. 到達目標（SBOs）

- ① 外来新患者の医療面接を行うことができる。
- ② 顔面および口腔粘膜、歯の診査を行い診断することができる。
- ③ 診療記録の作成ができる。
- ④ 症例の包括的かつエビデンスに基づいた治療計画の立案ができる。
- ⑤ 自験患者の診察および診療を行うことができる。
- ⑥ 患者診察の見学時に適切な器具準備、介助を行うことができる。
- ⑦ 自験の症例に関して学習成果をまとめることができる。
- ⑧ Case presentation を通してプレゼンテーション力を身につける。
- ⑨ Case presentation を通して症例の概要を説明できる。
- ⑩ 自ら課題を見つけ、自学自習能力や習慣を身につけることができる。

## コア・カリキュラム番号

D-2-1、D-4-1、D-4-2、D-4-3、E-4-1、E-4-2、E-4-3

## 3. 実習内容

### 1) 診療参加型臨床実習

#### ① 医療面接実習

- (1) 新患者を対象として医療面接を行い診療録の作成を行う。
- (2) 新患者を対象として主訴部を中心に歯、歯周組織、口腔粘膜、顔面について診査し、必要なエックス線検査等を行い診断する。

#### ② 自験メンテナンス

- (1) 自験患者の診査所見やエックス線検査所見をカルテに入力する。
- (2) 自験患者の診査・検査所見から総合的に診断をする。
- (3) 自験患者を対象として診断に基づき治療計画の立案を行う。
- (4) 担当ライターの指導、監督下のもと治療計画に基づいた治療を的確、安全に行う。
- (5) 介助者および器具準備者として担当ライターあるいは他学生自験患者の診察、治療の介助を行う。

**自験患者の治療および介助の際は、マスク、ルーペまたはゴーグル、キャップを必ず着用すること。**

## 2) 自験患者における学習成果のまとめ (ポートフォリオ)

- (1) 自験患者について一定の診療進度において学習成果のまとめを行う。別紙に定める項目についてポートフォリオを作成する。
- (2) 臨床実習期間内の終盤(1 月頃)に担当した患者について治療内容等を記載し所属チューターに提出し評価および承認をもらう。

## 3) Case presentation 実習

チューターから提示された症例について検討し Presentation を行う。

### ① 発表日時

令和6年9月～12月に開催する。

(詳細な開催日程等は別紙にて通知する。)

各ソサエティーで2つのグループを作り、それぞれ1演題、計2演題の症例を発表する。

### ② 発表方法

- (1) 発表方法は口演発表とし、1日にすべての演題を発表する。
- (2) 口演発表は、1症例につき発表15分、質疑応答10分とする。
- (3) 口演発表は、すべてPC(単写)で行う。
- (4) 質疑は座長の指示に従い評価者および会場の参加者から受けつける。

### ③ 発表概要

- (1) 発表症例は岩手医科大学歯科医療センターに通院中もしくは治療を終了した患者の中から、チューターが指示した症例とする。
- (2) 発表内容は診査、診断、理想的治療計画(期間、治療費等の制約がないもの)と現実的治療計画(実際に患者と決定し治療を行ったもの)の立案、行った治療内容、臨床的ポイント、考察等とする。
- (3) 発表内容は学生自身が自ら考え、調べた内容で行う。
- (4) 発表に際しては、症例の概要を記した配布資料を製作し、参加者に対して配布する(A3サイズ1枚)。

## 4. 評価

総合歯科学講座のミニマムリクワイアメント(65点)は200点に換算し評価する。

### 1) 診療参加型実習のミニマムリクワイアメントは140点(200点中)とする。

#### ① 医療面接実習のミニマムリクワイアメントは60点とする。

- (1) 医療面接実習のミニマムリクワイアメントは6症例(各10点)とし、1症例毎に担当ライターより技能、態度について指導および評価を受け電子ログブックの承認をもらう。
- (2) ミニマムリクワイアメントのケースが終了した際は、オーバーケースとして取り扱われる。
- (3) ケース承認権のないドクターが初診外来を担当した際は、担当した患者のレポートを製作し、担当チューターから承認をもらう。

**② 自験メインテナンスのミニマムリクワイアメントは 60 点とする。**

- (1) 患者診察実習では、診療内容計画書(治療セッション用紙)の提出が必要となる。診察日 2 日前までに診療当日担当ライターおよび所属チューターの確認が必要となる(確認印をもらう)。
- (2) 自験メインテナンスは、1 回につき 10 点とする。
- (3) 診療当日の担当ライターより知識、技能、態度について評価を受ける。その後、処置内容を記載し、担当ライター確認後、電子ログブックの承認をもらう。

**③ 自験患者における学習成果のまとめ (ポートフォリオ) のミニマムリクワイアメントは 20 点とする。**

- (1) 1 症例(20 点/1 症例)をミニマムとし、所属チューターが評価する。
- (2) 所属チューターが評価し、2、1 評価をうけたケースについてはミニマムケースとは認められず再評価の対象となる。再評価にて 3 以上評価に値すると判断された場合にミニマムリクワイアメントケースとして認められる。
- (3) 対象症例は新患、引き継ぎ、専門外来からの紹介等を問わず、総合診療室で自験患者として診察を行う患者とする。

**2) Case presentation (CP) のミニマムリクワイアメントは 60 点とする。**

- ミニマムリクワイアメント達成には、以下の 3 項目が必要条件となる。
  - (1) Case presentation を実施する。
  - (2) Case Presentation に出席する。
  - (3) Case presentation 前に各 Society で予演会を行う。
- ミニマムリクワイアメント評価の内訳は発表 (30 点 : Case Presentation を発表) 、予演会 (20 点/2 回以上) 、Case Presentation 出席 (10 点) とする。
- Case presentation 発表の評価は歯学部教員のうち 3 名で行う。
- Case presentation 発表の教員評価点数は、評価者ひとりの評価点数 100 点×3 =300 点満点とし、また、評価は優秀発表 Society 選考時の選考材料となる。
- Case presentation の最終的な評価は、評価者の評価点数を合計したものとす
- 出席については Case presentation 開始前に入室し、終了時まで在室すること。
- CP 評価の詳細は、評価基準に従い行う(別紙)。

**5. その他**

ミニマムリクワイアメントケース 200 点を臨床実習評価点 65 点 (/100 点) として換算する。

評価点数の合計時に小数点以下の点数が生じた場合には切り上げとする。

## 6. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
①～③、⑩	形成的評価	知識、技能、態度	教員	実習期間中	観察記録
⑤、⑥、⑩	形成的評価	知識、技能、態度	教員	実習期間中	レポート 口頭試問
④、⑦、⑩	形成的評価	知識	チューター	実習期間中	観察記録
⑧、⑨	形成的評価	知識、態度	チューター	実習後期	実地試験

## 7. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) オーバーケースの加点はミニマムと同じとする。オーバーケースは加算状況を全体的に評価するが、基本的には最高加算者を 20 点/35 点として比例加算を行うこととする。比例計算で生じた小数点以下は切り上げとする。
- 2) 残り 15 点分の評価に関しては各実習項目における 5 段階評価の状況や総合歯科学の臨床実習の全体をとおした態度について担当ライター、所属チューターと協議の上加算する。

## 8. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 (8:30-12:00)	高橋 美香子 坂本 りく 金森 尚城	なし	八戸 勇樹 菊池 恵美子	佐々木 溪斗 鈴木 啓太	菊池 恵美子 千葉 学	なし
午後 (13:00-16:00)	高橋 美香子 浅野 明子	なし	星 美貴 中村 友宣 or 東 兼司	浅野 明子 村井 治	伊藤 凌 岸 光男	なし

# 臨床実習Ⅱ：予防歯科学

ライター長：口腔医学講座（予防歯科学分野） 大石 泰子 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

保健指導、予防処置並びに周術期の口腔管理に必要な知識、態度と技能を習得することで、患者のニーズにあった歯科保健医療を提供することができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

- ① 硬組織検査ができる。
- ② PCR を測定できる。
- ③ セルフ（ホーム）ケア指導ができる。
- ④ 口腔ケアができる。
- ⑤ 機械的歯面清掃ができる。
- ⑥ 周術期における口腔管理の必要性を説明できる。

## コア・カリキュラム番号

D-2-4-3、D-5-1-2、D-5-1-3、D-5-1-4、E-5-2-1、E-5-2-2、E-5-2-3、E-6-1-1

## 3. 実習内容

予防歯科学分野のケース表に基づき、ミニマムリクワイメントを達成するよう、学生自身が実習を行う。

## 4. 実習にあたっての注意事項

- (ア) 実習はすべてライターの指導のもと行う。
- (イ) 臨床実習を行う際には、事前に臨床実習書をよく読み、基礎的知識を身につけて臨むこと。
- (ウ) 介助に際しては患者、術者に気を配り、診療が円滑に進むように行うこと。
- (エ) 診療にあたっては、患者の年齢を考慮して対応し、コミュニケーションをはかり、患者との信頼関係が得られるように努力すること。
- (オ) 無断で欠席、遅刻はしないこと。
- (カ) 体調不良の時は早めに申し出ること。

## 5. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
①～⑥	形成的評価	技能・態度	教員	実習中	観察記録
①～⑥	形成的評価	知識	教員	実習後	レポート
①～⑥	総括的評価	知識	教員	全ケース終了後	客観試験 口頭試問

## 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) 知識（診療内容の理解）
- 2) 技術（コミュニケーションスキル、電子カルテ等からの情報収集）
- 3) 態度（積極性、身だしなみ、患者への配慮、医療関係者としての礼節ある行動）

## 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内丸※	岸 光男 大石 泰子 杉山 由紀子	佐藤 俊郎 大石 泰子	杉山 由紀子 佐藤 俊郎	佐藤 俊郎 佐藤 華子	佐藤 華子 大石 泰子	岸 光男 佐藤 俊郎 大石 泰子 杉山 由紀子 佐藤 華子
矢巾※	佐藤 俊郎 佐藤 華子		大石 泰子 佐藤 華子			

※内丸（歯科医療センター2階）にて白桦実習を実施する。

※矢巾（附属病院4階）にて総合歯科と合同で配属実習を2日間実施する。

# 臨床実習Ⅱ：歯内治療学

ライター長：歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 中村 友宣 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

座学、シミュレーターで取得した修復治療するための知識、技術、態度を応用して、自験症例に対して正確な診査、診断のもと治療計画を立案できるようになる。また、立案した治療計画に従って歯内治療を実施できるようになる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 診察の基本技能

- ① 歯内疾患の病態を説明できる。
- ② デンタルエックス線写真を読影し、説明できる。
- ③ 患者に治療方針を説明できる。
- ④ 患者およびコ・デンタルスタッフとコミュニケーションできる。

### 2) 診査・診断の基本的技能

- ① 各種手用器具を適切に使用できる。
- ② 歯髄電気診を実施できる。
- ③ 温度診を実施できる。
- ④ 根管孔の明示ができる。
- ⑤ 作業長が測定できる。

### 3) 治療の基本的技能

- ① 適切な救急処置ができる。
- ② 簡単な抜髄・感染根管治療ができる。
- ③ 適切な仮封ができる。

### 4) 臨床推論

- ① 講義、臨床実習で得た知識を用いて、問題を解くことができる。

## コア・カリキュラム番号

E-1-1-)、E-1-2)、E-1-4)-(3)、E-2-4)-(3)、E-3-1)、E-3-2)、E-3-3)

## 3. 実習内容

### 1) 総合歯科配当ケース：

- ① 原則二人で一人の患者を担当する。
- ② アポイント三日前までにセッション計画を作成し、当日の担当ライターの確認をもらう。（治療当日までに最低2回以上の確認を行うこと。）
- ③ 診療
  - ・アポイントメントの10分前に外来に集合し、ユニットの操作方法の確認、使用する機材の準備を行う。担当ライターの指示で患者誘導を行い、診療あるいは介助を行う。
- ④ 患者および担当ライターと相談し、次回アポイントを取得する。

⑤ 後片付け

- ・総合歯科Bのルール従い使用した器具の片づけ、ユニットの清掃を行う。

⑥ レポートの作成

- ・治療後1週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を行い、フィードバックを受ける。レポートの確認は原則、外来診療時間の終了後からとする。なお、会議、出張などで不在の場合も予想されるため事前に担当ライターと予定を決めておくこと。

※形成など事前に練習をしておくように指示することもあるため、模型、形成に用いる機材などを各自用意しておくこと。練習場所はライターの指示に従うこと。

2) 総合歯科配属、白桦：

① 配属当日8:30に外来に集合し、当日の担当ライターを決める。

② 担当ライターの指示のもと、患者の誘導、診療介助を行う。

③ レポートの作成

- ・2週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を受ける。レポートの確認は原則、外来診療時間の終了後からとする。

なお、会議、出張などで不在の場合も予想されるため事前に担当ライターと予定を決めておくこと。

3) 診療実習ケース

① 歯髄診査

② 浸潤麻酔

③ ラバーダム防湿

④ 抜髄法

⑤ 感染根管治療

⑥ 根管充填

⑦ 顕微鏡による根管内の観察

4. 身だしなみ等

- ・常に清潔な白衣、服装を心がけること。また、頭髪の長さ、色にも注意し、病院スタッフの自覚を持つこと。
- ・患者への説明など丁寧でわかりやすい言葉を使用すること。
- ・においへの配慮も行うこと（タバコ、香水など）
- ・上記に対して指導を受けたものは速やかに改善を行うこと。改善されない場合は実習中止とする。また、無断での欠席や配属当日、患者予約日に無断で現れない場合も実習の中止とする。



## 5. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ①～④ 3) ①	形成的評価	臨床実習生 (知識・技能)	教員	自験前後	レポート・口頭試問
2) ①～⑤ 3) ②③	形成的評価	臨床実習生 (技能・知識・態度)	教員	自験中	観察記録・口頭試問
1) 2) 3)	形成的評価	臨床実習生 (相互実習)	教員	後期以降	臨床実習試験
4) ①	総括的評価	臨床実習生 (知識)	教員	配属中	口頭試問・筆記試験
知識試験	総括的評価	臨床実習生 (知識)	教員	年に一回	筆記試験

## 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) オーバーケース数
- 2) 出席率
- 3) レポート内容

## 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣
午後	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	

# 臨床実習Ⅱ：保存修復学

ライター長：歯科保存学講座（う蝕治療学分野） 中村 友宣 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

座学、シミュレーターで取得した修復治療するための知識、技術、態度を応用して、自験症例に対して正確な診査、診断のもと治療計画を立案できるようになる。また、立案した治療計画に従って修復治療を実施できるようになる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 診査

- ① 問診を実施できる。
- ② 視診を実施できる。
- ③ 触診を実施できる。
- ④ 動揺度検査を実施できる。
- ⑤ 口内法エックス線検査を実施できる。

### 2) 治療・術式（一般事項）

- ① 診療録を作成できる。（SOAPの記載ができる）
- ② 処方箋を作成できる。
- ③ 患者への病状の説明を実施あるいは説明することができる。
- ④ 歯科技工指示書の作成を実施あるいは説明することができる。
- ⑤ 医療情報提供書の作成を実施、あるいは説明することができる。
- ⑥ インフォームドコンセントを説明することができる。

### 3) 治療・術式（局所麻酔）

- ① 表面麻酔・浸潤麻酔を実施できる。

### 4) 治療・術式（修復処置）

- ① 直接修復の複雑、単純窩洞形成が実施できる。
- ② レジン充填を実施できる。
- ③ グラスアイオノマーセメント充填を実施できる。
- ④ 間接修復（インレー修復）を実施または説明できる。
- ⑤ ラバーダム防湿を実施できる。
- ⑥ 仮封および仮着を実施できる。
- ⑦ 象牙質知覚過敏処置を実施できる。
- ⑧ 覆髄法を説明できる。

### 5) 臨床推論

- ① 講義、臨床実習で得た知識を用いて、問題を解くことができる。

### 6) 周術期管理

- ① 周術期管理における歯科医師の役割を理解できる。

## コア・カリキュラム番号

E-1-1-)、E-1-2)、E-1-4)-(3)、E-2-4)-(3)、E-3-1)、E-3-2)、E-3-3)、G-3

### 3. 実習内容

#### 1) 総合歯科配当ケース：

- ① 原則二人で一人の患者を担当する。
- ② アポイント三日前までにセッション計画を作成し、当日の担当ライターの確認をもらう。(治療当日までに最低2回以上の確認を行うこと。)
- ③ 診療
  - ・アポイントメントの10分前に外来に集合し、ユニットの操作方法の確認、使用する機材の準備を行う。担当ライターの指示で患者誘導を行い、診療あるいは介助を行う。
- ④ 患者および担当ライターと相談し、次回アポイントを取得する。
- ⑤ 後片付け
  - ・総合歯科Bのルール従い使用した器具の片づけ、ユニットの清掃を行う。
- ⑥ レポートの作成
  - ・治療後1週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を行い、フィードバックを受ける。レポートの確認は原則、外来診療時間の終了後からとする。なお、会議、出張などで不在の場合も予想されるため事前に担当ライターと予定を決めておくこと。

※形成など事前に練習をしておくように指示することもあるため、模型、形成に用いる機材などを各自用意しておくこと。練習場所はライターの指示に従うこと。

#### 2) 総合歯科配属、白枠：

- ① 配属当日8:30に外来に集合し、当日の担当ライターを決める。
- ② 担当ライターの指示のもと、患者の誘導、診療介助を行う。
- ③ レポートの作成
  - ・2週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を受ける。レポートの確認は原則、外来診療時間の終了後からとする。なお、会議、出張などで不在の場合も予想されるため事前に担当ライターと予定を決めておくこと。

#### 3) 診療実習ケース

- ① コンポジットレジン修復
- ② グラスアイオノマーセメント修復
- ③ 象牙質知覚過敏症
- ④ インレー修復
- ⑤ インレー装着

#### 4) 周術期ケース

- ① 配属日当日の朝8:30に矢巾大学病院歯科外来に集合する。
- ② 当科担当医から1ケース配当を受け、見学、介助を行う。
- ③ 水曜日配属の際は16:30から内丸総合歯科Bにてカンファレンスに参加する。
- ④ 配属後2週間以内にライターにレポートを提出し、口頭試問を受けること。

#### 4. 身だしなみ等

- ・常に清潔な白衣、服装を心がけること。また、頭髪の長さ、色にも注意し、病院スタッフの自覚を持つこと。
- ・患者への説明など丁寧でわかりやすい言葉を使用すること。
- ・においへの配慮も行うこと（タバコ、香水など）
- ・上記に対して指導を受けたものは速やかに改善を行うこと。改善されない場合は実習中止とする。また、無断での欠席や配属当日、患者予約日に無断で現れない場合も実習の中止とする。

#### 5. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
1) 2) 3) 4)	形成的評価	臨床実習生 (知識・技能)	教員	自験前後	レポート・口頭試問
4) ①～⑤	形成的評価	臨床実習生 (技能)	教員	中期以降	自験技能試験 (ケース試験)
1) 2) 3) 4)	形成的評価	臨床実習生 (知識)	教員	後期以降	臨床実習試験
5)	総括的評価	臨床実習生 (知識)	教員	年に一回	筆記試験
6)	総括的評価	臨床実習生 (知識)	教員	配属後	口頭試問

#### 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) オーバーケース数
- 2) 出席率
- 3) レポート内容

#### 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣
午後	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	野田 守 浅野 明子 東 兼司 中村 友宣	

# 臨床実習Ⅱ：歯周病学

ライター長：歯科保存学講座（歯周療法学分野） 鈴木 啓太 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

歯周疾患は歯周組織を損壊する因子と、その因子に対する宿主の生体応答のバランスの上に成り立つ病変である。歯周組織とその周辺関連組織の形態的および機能的特性を理解するとともに、それらに基づいて歯周組織に生じる病変（lesion）及び疾患（disease）の病態、検査、診断、治療計画立案、治療法を歯科医学の見地から修得することで、歯周疾患の病態を正しく理解、把握し、歯周治療を実施することができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

- 1) 歯周病の診査・診断を行うことができる。
  - ① エックス線写真を適確に読影し、説明できる。
  - ② 歯周組織検査が実施できる。
- 2) 歯周基本治療が実施できる。
  - ① プラークコントロール指導ができる。
  - ② スケーリングができる。
  - ③ スケーリング・ルートプレーニングができる。
  - ④ 咬合調整ができる。
  - ⑤ 暫間固定ができる。
  - ⑥ PMTC ができる。
- 3) 歯周外科治療の種類や術式を理解し、介助を行うことができる。
  - ① 歯周外科治療の各分類や該当する術式の種類・処置の流れを説明できる。
  - ② 歯周外科治療の準備を行うことができる。
  - ③ 歯周外科治療の介助を行うことができる。
- 4) サポートィブペリオドンタルセラピー（SPT）及びメンテナンスが実施できる。

## コア・カリキュラム番号

D-5-2-3-1～5、E-2-2-5、E-2-5-4、E-5-2-3、E-5-3-3-1～6

## 3. 実習内容

- 1) 先進総合歯科（A）

ライター指導のもとに臨床実習を行い、診療術式を習得する。
- 2) 歯周病外来
  - ① ライター指導のもとに臨床実習を行い、診療術式を習得する。
  - ② 重度歯周炎症例や特殊な歯周疾患について、見学・介助実習を通して診療術式を修得する。
- 3) 歯周外科治療
  - ① 歯周外科治療（分類、各術式・手順）についてのレポートを前期配属2日前までに提出させる。

- ② ①を提出後に口頭試問を行う。
  - ③ 歯周外科治療の各術式について VTR を視聴させる。
  - ④ 歯科衛生士から器具準備と片付けについて指導を受けた上で、歯周外科治療の見学・介助実習および術後処置を行い、診療術式を修得する。
  - ⑤ 歯周外科治療について WebClass を用いて知識習得評価を行う。
- 4) 臨床習熟度評価 (WebClass)  
臨床実習で得られた知識の定着度の評価を行う。
- 5) 自験技能試験  
臨床実習で得られた技能を評価する。
- 6) 実習にあたっての注意事項
- ① 臨床実習後は必ず担当ライターから処置内容やレポートの確認を受け、電子ログブックにて評価・承認を受ける。
  - ② ネームプレートは必ず着用する。また、臨床実習は患者さんのご好意によって行われるため、実習にふさわしくない言動や身だしなみ（髪型、髪の長さ、髪の色、ヒゲ）、服装（汚れた白衣等）の院内生は実習を中止し、外来からの退出を指示する場合もあるので十分に注意する。
  - ③ 長期間通院されている患者さんの中には、自身の基礎疾患や歯科治療の内容について十分な知識を有している方が多いので、担当する際は予め十分に勉強をした上で実習に臨むように心がける。
  - ④ 学生相互実習については、事前に担当ライターに相談する。

#### 4. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ~ 4)	形成的評価	知識	教員 (ライター)	自験前後	口頭試問
1) ~ 4)	形成的評価	態度	教員 (ライター)	実習後期	オーバーケース
1) ~ 4)	形成的評価	知識	教員 (ライター)	実習前期	前期臨床習熟度評価
1) ~ 4)	総括的評価	知識	教員 (ライター)	実習後期	後期臨床習熟度評価
最終実技試験	総括的評価	技能	教員 (ライター)	実習後期	自験技能試験

#### 5. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) 自験技能試験 (10 点)
- 2) 臨床習熟度評価 (10 点)
- 3) オーバーケース数 (15 点)

## 6. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	佐々木 大輔 村井 治	村井 治 鈴木 啓太	佐々木 大輔 鈴木 啓太	佐々木 大輔 村井 治 千葉 学	佐々木 大輔 鈴木 啓太 千葉 学	佐々木 大輔 村井 治 鈴木 啓太 千葉 学
午後	千葉 学 村井 治	村井 治 鈴木 啓太 千葉 学	村井 治	佐々木 大輔 鈴木 啓太 千葉 学	佐々木 大輔 鈴木 啓太	

# 臨床実習Ⅱ：有床義歯補綴学

ライター長：歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 米澤 悠 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

- ① 講義および基礎実習などで修得した知識・学理を理解し、臨床の現場で実践することで、補綴歯科治療の導入基盤が形成される。
- ② 有床義歯症例を初診から予後・終診までの一連の治療を通して見学および自験実習を行うことで、症例の問題点を抽出し、その解決法を見出すことができるようになる。
- ③ 各学生が自主性と責任をもって補綴治療および患者教育を研修し、補綴歯科治療を行うことができるようになる。

## 2. 到達目標（SBOs）

- ① 全部床義歯および部分床義歯治療の目的と意義および具備条件を説明できる。
- ② 歯の喪失と加齢変化に伴う無歯顎口腔の病態像を説明できる。
- ③ 歯の欠損を有する高齢患者の特徴を説明できる。
- ④ 義歯に起因する口腔粘膜病変の種類と、その特徴を説明できる。
- ⑤ 治療計画を左右する因子を理解し、治療計画の提示と医療面接が実施できる。
- ⑥ 可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内の診察・検査・診断用模型およびエックス線画像等により適切に設計ができる。
- ⑦ 設計に応じて、支台歯の前処置（歯冠形態の修正、レストシートおよびガイドプレーンの形成）を適切に実施できる。
- ⑧ 印象採得に必要な口腔解剖を理解し、印象採得を実施できる。
- ⑨ 下顎位と下顎運動に関する基本的事項を説明できる。
- ⑩ 顎間関係の決定法と、その問題点を理論的背景から説明し、適切に顎間関係の記録を実施できる。
- ⑪ 人工歯の種類と、その特徴を理解し適切に選択できる。
- ⑫ 咬合器の種類と、その特徴を理解し適切に選択できる。
- ⑬ 可撤性義歯に付与する咬合様式と、その意義を説明できる。
- ⑭ ろう義歯試適の臨床的意義と検査項目を説明し、実施できる。
- ⑮ 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明し、各技工操作を適切に実施できる。
- ⑯ 咬合調整の臨床的意義と基本的な方法を説明し、実施できる。
- ⑰ 完成義歯を患者に装着し、患者指導内容を説明できる。
- ⑱ 義歯装着後の定期検診の意義と重要性を理解し、診察事項を説明し実施できる。
- ⑲ 義歯の調整、リライン、および修理を適切に実施できる。

## コア・カリキュラム番号

B-1, 2, 3, D-4, D-5-3-2, E5-3-4-2



### 3. 実習内容

#### 1) 義歯外来自験実習、技工操作

- ・学生は患者 1 名を数名で担当し、検査・診断～完成義歯装着および予後までの一連の治療を行う（5 点×5 項目＝25 点）。**他科配属中に自験実習を行う場合は、中座願いを必ず提出すること。**
- ・自験実習を行う際は、事前に担当ライターの許可を得る。また、2 日前までに治療内容の予習とセッション計画を提出し承認を得ることを必須とする。これが守られない場合はライター長の判断の下、実習を停止する場合がある。自験治療後は、数日中に処置内容を担当ライターに提出する。
- ・1 口腔に対する包括的な診療という考えに基づき実習を行うため、上下顎あるいは片顎に関わらず 1 ケースとみなす。治療終了まで担当し修了とする。
- ・原則義歯外来 A で行う治療のみをケースとして認める。
- ・患者未来院や患者数の不足により自験実習が行えない場合は、ライター長の判断で、義歯外来の見学ケースを、自験治療ケースの代替とする（オーバーケース 2 回分を自験 1 回分とする。ただし、原則として義歯外来自験実習を進行させ、ミニマムリクワイアメントを修了することを前提とする）。
- ・技工操作として自験患者の義歯治療に必要な技工操作を行う（5 点×3 項目＝15 点）。自分の担当患者がいない場合は、義歯外来治療介助・見学実習の患者の技工を行うことにより代替する。後期総合試験が終了しても技工ケースがない場合は、ライターの判断の下、技工の見学やレポート提出等で補完する。

**※レポートの提出はケース実施より 1 週間以内とし、それ以降提出した場合は無効とする。やむを得ず、期限内での提出が難しいと判断される場合は、事前にライターと相談する。**

#### 2) 有床義歯介助・見学実習（配属実習）

- ・義歯外来 A にて、ライターの診察・検査・診断～義歯調整および義歯修理・その他の有床義歯治療の症例の介助または見学を行う（4 点×7 項目、義歯調整は 5 ケース＝44 点）。
- ・配属実習の際は、8 時 50 分までに義歯外来 A に集合し、当日の来院患者内容を把握しておくこと。
- ・配属実習中は義歯外来 A にて終日実習を行う。
- ・介助、見学は 1 ケースにつき 3 名までとする。
- ・処置内容に記載は原則不要。ライターの指示があった際はレポートを提出すること。
- ・同一患者の見学を継続して行うのが望ましいが、場合によってはその限りではない。
- ・義歯外来 A 受付の後ろの棚にライターのアポイント帳がある。前日までに予約を確認し、担当ライターに介助見学の許可を得る。ライターの裁量で当日見学の許可取得を認める場合もある。
- ・FR 実習等によってライターの多くが不在になる日もあるため、事前に電子カルテやライターのアポイント帳にて予約状況を確認し、前日までに代表者がライターの指示を受けること。

### 3) 新患急患（予診）対応実習（白粹，配属実習）

- ・義歯の破損や義歯による疼痛など、有床義歯の主要徴候への対応方法を学ぶ。（3点×2回=6点）
- ・新患急患（予診）見学実習は、原則前日までに希望日に予約を取る。実習は半日を合計2回行う。義歯外来Aの新患急患見学実習予約表に番号と名前を記載する。

### 4) オーバーケースについて

- ・外来実習におけるミニマムリクワイアメント以外の実習は、オーバーケースとして扱う。
- ・義歯外来における自験治療のオーバーケースは、5点とする。介助見学実習は4点とする。
- ・新患急患対応見学実習のオーバーケースは、3点とする。

### 5) 各ケースの評価方法

- ・見学終了後、担当医より課せられた内容についてレポートを提出する。レポートの提出は、レポート用紙または、Web Class とし、担当医からの評価（A：合格、B：条件付き合格、C：再提出）をもらう。担当医からの合格をもらった場合にはログブックの承認を行い、そのケースを修了とする。**提出期限は原則、1週以内とする。**十分な知識があると認められた場合にケース表に押印を受けることができる。押印を受ける際、必ず処置日をケース表に記載すること。なお、十分な知識があると認められない場合は、再度同じステップの実習を行う。

### 6) 習熟度試験

- ・基礎学力向上、臨床実習中の知識の確認を目的に習熟度試験を年1回開催する。65点以上を合格とし、基準点に満たないものは不合格とする。不合格者が出た場合は再試験を実施する。（10点）

## 4. 身だしなみ等

常に清潔な白衣、服装を心がけ、頭髪の長さや色にも注意し、病院スタッフや患者にも清潔と容易に理解されるように十分に配慮すること。また、タバコやアルコールの臭いなどの悪臭を放つことのないよう、十分に注意すること。改善がみられない場合は、実習を中止させることがある。患者予約日に学生が無断で現れなかった場合や技工物製作がなかった場合、あるいは期日に間に合わなかった場合も実習中止とする場合がある。

## 5. 臨床実習停止時の対応

有床義歯介助・見学実習の小項目から、班ごとにケースとして承認を得たいケースを選択し、その項目について学習する。班ごとに協力して、PowerPoint に発表時間10～20分程度でまとめる。その後、ライターの評価を受け、合格することで介助・見学1ケースとして認めることとする。発表は外来診療終了後に行う。

※上記に関しては、当日いるライターに指示を受けることとする。

## 6. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
①、④、 ⑨、⑬	形成的評価	知識	教員	自験ケース、 義歯外来実習時	レポート 口頭試問
⑤～⑧、 ⑩～⑫、 ⑭、 ⑯～⑲	形成的評価	知識・技能・態度	教員	自験ケース、 義歯外来実習時	観察記録 口頭試問
⑮	形成的評価	知識・技能	教員	技工ケース実施時	観察記録 口頭試問
①～⑲	形成的評価	知識	教員	義歯外来実習、 自験ケース終了時 (自己申告)	学習評価試験 習熟度試験
①～⑲	総括的評価	知識・技能	教員	後期試験	臨床実習試験 (多肢選択試験)

## 7. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) オーバーケースの点数に準じて相対評価する。(25点)
- 2) 習熟度試験の結果に準じて相対評価する。(10点)

## 8. 実習担当者

臨床実習(Ⅱ)(白枠実習・配属実習)・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤 凌	原 総一郎 米澤 紗織 佐藤 宏明 島田 崇史
午後	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 紗織 米澤 悠 佐藤 宏明 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤 凌	小林 琢也 原 総一郎 米澤 悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤 凌	

# 臨床実習Ⅱ：冠橋義歯補綴学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 齊藤 裕美子 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

臨床の場で診断、治療計画、治療経過および術後の経過観察までの各段階を通じて歯科技工を含めた冠橋義歯補綴学を理解、修得することで患者の顎口腔系の形態、機能を回復し、健康を維持増進することができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 外来実習

- ① 診察法を理解し、適切な診断ができる。G-1-①, ②, ③, ④
- ② 患者とのコミュニケーションをはかることができる。G-2-①) G-5-①, ②)
- ③ 冠橋義歯補綴学の臨床の流れを理解し、説明できる。G-2-②)
- ④ 歯の欠損に対する補綴治療ができる。G-3-⑧)
- ⑤ 指導者のもと、冠橋義歯補綴による補綴治療からメンテナンスまでが実践できる。G-3-⑧)
- ⑥ 冠橋義歯補綴学の技工操作を理解し、実践できる。G-3-⑧)
- ⑦ 高度な欠損補綴治療に対して適切な介補ができ、診療を円滑に進めることができる。G-3-⑧)

## コア・カリキュラム番号

G-1) ①②③④, G-3⑧

## 3. 実習内容

### 1) 専門外来自験実習

- ① 専門外来指導医の指導のもとに診療術式を修得する。
- ② 患者を診療ユニットに誘導、指導医の指示のもとに患者実習を行う。
- ③ 自験症例に対して診察、検査からメンテナンスまで実践する。
- ④ 配属実習終了後、担当医より課せられた内容があれば処置内容を提出する。必要となるレポートの提出はWeb class 上で行い、担当医からの評価（A:合格、B:条件付き、C:再提出）をもらう。担当医からの合格をもらった場合にはログブックの承認を行い、そのケースを終了とする。

**※提出期限は各ケース実施日より1週間とし、それ以降提出した場合は無効とする。**

### 2) 義歯外来実習

- ① 義歯外来において指導医の指導のもとに診療術式を修得する。
- ② 難易度の高い補綴症例、デジタル歯科などについての診療術式を修得する。
- ③ 見学ケースは5月1日より開始し、各指導医のアポイント帳で各自確認する。

**※指導医は今、深澤、横田、福德、齊藤、佐々木、星、八戸、島崎の9名とする。**

- ④ 見学は3名までとして認める。
- ⑤ 学生本人が指導医へ許可をもらい、その後各指導医の予約表に自身の出席番号を

記入する。許可をもらわずに記入した場合は無効とする。

- ⑥ 指導医の所在についてはアポイント帳またはシラバスで確認すること。
- ⑦ 見学終了後、処置内容ならびに見学処置に該当する項目について承認をもらう。進行表を必ず持参すること。
- ⑧ 必要であれば提出したレポートを基に必要に応じて口頭試問を行い、十分な知識の獲得を確認できた場合、本ケースを終了として承認する。その際、進行表を必ず持参すること。
- ⑨ 処置内容ならびにレポート、進行表には『処置日』『指導医印』を必ず記入すること。

**※各ケース実施日より 2 週間を過ぎて提出、また見学日から 1 ヶ月以内に承認が得られていないケースは無効とする。**

- ⑩ 進行表、処置内容ならびに関連資料は必ず自身で保管しておく。(配布したファイルにファイリングすること) 紛失した場合はそれまでの承認を無効とする。

### 3) 学習評価試験

- ① 実習終了後、指導医 1 名のもと総合的レポートの作成をおこなう。指導医が必要と判断した場合は、さらに口頭試問を追加しそれらの結果をもとに評価を行う。十分な知識、技術を修得していない場合は再試験を施行する。

## 4. 実習にあたっての注意事項

- 1) 臨床にふさわしい服装を心がけること。
- 2) 外来見学は、各自が指導医にアポイントをとること。

## 5. 臨床実習停止時の対応

(基礎実習室・技工室・CAD/CAM センターへの立ち入りが許される場合)

### 1) 義歯外来介助ケース

- ① 検査・予備印象：ファントムに装着した上下顎歯模型の概形印象採得を行い、上下研究用模型を製作し、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。
- ② 支台築造：支台築造用の上顎前歯人工歯 5 本に対し、直接法支台歯築造を行い、概形成まで終了させる。指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。
- ③ 支台歯形成、精密印象・咬合：右下第一大臼歯全部金属冠の支台歯形成を 5 本行い、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。
- ④ 暫間冠作製・調整：右上中切歯の暫間冠作製を、既製冠を用いる方法、レジン泥を用いる方法のそれぞれで 2 本製作し、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。
- ⑤ 試適・装着：右下第一大臼歯全部金属冠のワックスアップを行い、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。

### 2) 義歯外来見学ケース

顎顔面補綴：顎顔面補綴治療に関するレポートを A4 用紙 2 枚程度にまとめ、指導医の評価に合格することで見学 1 ケースと認める。

※臨床実習停止時は上記のいずれを行うか選択できるが班員全員が共通の課題を行うこと。

## 6. 臨床実習停止時の対応（実習室・技工室への立ち入りが許されない場合）

- ・口腔内写真、研究用模型、エックス線写真等の資料からケースプレゼンテーションに準じた症例検討を行う。パワーポイントで発表時間 10 分程度にまとめ、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。

※班ごとに協力して 1 症例のケースプレゼンテーションを製作すること。

※外来診療終了後に指導医に対し発表を行う。

※上記、臨床実習停止時には当日いる指導医に指示を受けること。

## 7. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
①～⑦	形成的評価	知識・技能・態度	教員 (指導医)	自験前後	レポート 口頭試問
⑤～⑥	形成的評価	知識・技能	教員 (指導医)	各技工ケース終了時	観察記録
①～⑦	総括的評価	知識・技能	教員 (指導医)		学習評価試験

## 8. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) 臨床にふさわしい態度
- 2) 総合的な知識・技術の習得

## 9. 知識向上施策について

5 年生のうちに知識として身につけなければならない課題：

- ・クラウン全般の知識
- ・装着するクラウンとエナメル質、象牙質の被着面処理について

GI0: 装着する補綴装置の理解と装着するために必要な被着面処理について理解できるようになる。

SBOs:

- ① クラウンの種類について説明できる。
- ② クラウンの内面処理について説明できる。
- ③ 装着するクラウンに必要な支台歯形成について説明できる。
- ④ クラウンを装着する際に必要な支台歯の被着面処理について説明できる。
- ⑤ 装着時に必要なセメントについて説明できる。

## 10. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年3月4日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	深澤 翔太 齊藤 裕美子	今 一裕 福德 暁宏 佐々木 溪斗	今 一裕 横田 潤 星 美貴	横田 潤 齊藤 裕美子	深澤 翔太 福德 暁宏	八戸 勇樹 佐々木 溪斗
午後	深澤 翔太 齊藤 裕美子	今 一裕 福德 暁宏 佐々木 溪斗	今 一裕 横田 潤 星 美貴	横田 潤 齊藤 裕美子	深澤 翔太 福德 暁宏	

# 臨床実習Ⅱ：口腔インプラント学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 福德 暁宏 講師

## 1. 教育成果（アウトカム）

一連のインプラント治療の見学および参加を行うことで、臼歯部の咬合支持が確立しているインプラント治療の知識を習得し、説明できる状態に到達する。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 診察・検査の基本的知識・技能

- ① 患者に治療方針を説明できる。
- ② 患者およびコ・デンタルスタッフとコミュニケーションがとれる。
- ③ インプラント治療の方法・期間・予後・リスクについて説明できる。

### 2) 治療の基本的知識・技能

- ① 適切な診断用模型を製作できる。
- ② CT写真を適格に読影し、説明できる。
- ③ インプラント埋入手術について説明できる。
- ④ 適切な印象採得を行うことができる。
- ⑤ 暫間補綴装置及び最終上部構造の装着ができる。
- ⑥ メンテナンスについて説明できる。

## コア・カリキュラム番号

GE-01、D-2-5-9、D-5-3-3

## 3. 実習内容

### 1) インプラント外来実習

- ・実習期間は5月1日（水）から2月28日（金）まで。この期間中にリクワイアメントを終了させること。
- ・インプラント外来実習では、インプラント治療を行う患者を通して、診断、治療計画、手術術式、補綴術式を修得し理解を深めることを目的とし見学を行う。
- ・各班は配属開始前の週にインプラントカンファレンス（原則として毎週水曜 17:30 より 4F 第一講義室で行われるが、日程が変わる場合もあるため、外来の予定表を注意深く確認すること）に出席し、次週より開始される配属実習の指示を仰ぐ。
- ・手術および補綴ケースの見学は、原則として配属中の学生が優先されるが、配属期間以外の見学は白枠として開放している。
- ・見学はケース表の外科と補綴をケース表に記載されている通り実際の治療順序に即して見学を行う。外科と補綴は同時進行してよい。外科の2回目の手術の見学はどの段階でも見学可能である。
- ・手術の見学は必ずカンファレンスまでに本人が担当医に許可を申し出て、カンファレンスに参加する。カンファレンスは原則実施日より7日以上前の水曜日 17:30 より 4F 第1講義室で実施されるが担当医の出張などで早まる場合があるため、外来にて各自



確認する。補綴・メンテナンスは前日までに本人が担当医に見学の許可を申し出る。上記が満たされない場合、原則見学は認めない。見学の許可が得られれば、外来の担当医の予約帳に自分の番号と名前を必ずフリクションのボールペンで記入する（※インプラント科の予約表には記入しない）。手術の見学は1ケース4名まで、補綴とメンテナンスは2名までとする。

- ・見学までにカルテを確認し、処置する部位やインプラントシステムや使用する器具、パノラマ X 線写真などを確認し、当日行う手技についての事前レポートを作成し、持参する。
- ・アポイントメントはインプラント外来にある予約帳で各自確認する。
- ・見学終了後、担当医より課せられた内容についてレポートを提出する。レポートの提出は Web Class 上で行い、担当医からの評価（A：合格、B：条件付き合格、C：再提出）をもらう。担当医からの合格をもらった場合にはログブックの承認を行い、そのケースを終了とする。
- ・レポートの提出期限は実施日より 1 週間程度とするが担当医が指定した日時に本人が提出する。再提出の場合も担当医が指定した日時に提出する。原則提出が遅れた場合、ケースは無効とする。また、承認は見学日から 1 ヶ月以内とし、承認がもらえない場合のケースは無効とする。承認したレポートはライターが回収する。
- ・8 月までに 30 点、10 月までに 45 点、12 月までに 60 点を達成目標として進行を行う。
- ・インプラント配属中にインプラント見学ケースがない場合には、有床義歯または冠橋義歯のケースを義歯外来やインプラント外来で見学しても問題ない。

## 2) ミニマムケースについて

実習は、以下の項目について行う。

- ① インプラント一次手術 …見学ケースのみ、各症例の手技についての事前レポート
- ② インプラント二次手術 …見学ケースのみ、各症例の手技についての事前レポート
- ③ 印象採得 …見学ケースのみ、見学後に口頭試問を受け、場合によりレポート
- ④ 上部構造装着 …見学ケースのみ、見学後に口頭試問を受け、場合によりレポート
- ⑤ インプラントメンテナンス …見学ケースのみ、見学後に口頭試問を受け、場合によりレポート
- ⑥ 臨床習熟評価（印象採得）…③のケース終了後に学生が模型上で印象採得を行いながら、手順および器具を説明する。
- ⑦ 臨床習熟評価（上部構造装着）…④のケース終了後に学生が模型上で印象採得を行いながら、手順および器具を説明する。
- ⑧ 治療計画立案 …インプラント治療を行う上で必要な埋入シミュレーションを実際の症例で行い、配属中のカンファレンスで発表する。発表は 2 人または 3 人 1 組で行い、患者の概要、既往歴、埋入位置について 5 分間で発表する。

### 3) オーバーケースについて

ミニマムリクワイアメントで既に終了している項目についての見学は、すべてオーバーケースとして取り扱う。

### 4) 臨床実習停止時の対応

実習あるいは症例検討にて対応する。その際、詳細は担当ライターより指示を仰ぐ。

## 4. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ①②③ 2) ①	形成的評価	知識・技能・ 態度	教員 (ライター)	見学後	レポート 口頭試問
2) ④⑤⑥	形成的評価	知識・技能	教員 (ライター)	③④終了後	臨床習熟試験
2) ①②③	総括的評価	知識	教員 (ライター)	配属中	ケースプレゼン テーション

## 5. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- ⑥臨床習熟評価（印象採得）にて、印象採得（オープントレー法、クローズドトレイ法）に使用する器具および手順を発表し、10 点満点で評価する。
- ⑦臨床習熟評価（上部構造装着）にて、上部構造（スクリュー固定式、セメント固定式）に使用する器具および手順を発表し、10 点満点で評価する。
- ⑧治療計画立案にて、発表内容について 15 点満点で評価する。

## 6. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白枠実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹
午後	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	今 一裕 福德 暁宏 野尻 俊樹	

# 臨床実習Ⅱ：摂食嚥下・口腔リハビリテーション学

ライター長：歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 米澤 紗織 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

- ① 講義で修得した知識・技術を理解し、臨床の現場で実践することで、摂食嚥下リハビリテーションを行うことができるようになる。
- ② 他職種とのコミュニケーションを取りながら病棟または訪問診療での治療に参加することができるようになる。
- ③ 患者とその家族・介護者への対応ができるようになる。

## 2. 到達目標（SBOs）

- 1) 摂食嚥下障害患者に対する全身評価と問診ができる。
  - ① 摂食嚥下障害患者に対する全身評価と問診ができる。
  - ② 摂食嚥下障害に対する必要な検査を列挙できる。
  - ③ 摂食嚥下障害の病態を説明できる。
  - ④ 摂食嚥下障害の診断ができる。
  - ⑤ 摂食嚥下障害に対する治療法を説明できる。
  - ⑥ 高齢者の栄養状態の評価ができる。
  - ⑦ 摂食嚥下障害の病態に合わせた食形態の調整を説明できる。
  - ⑧ 要介護高齢者の口腔内能状態を判断できる。
  - ⑨ 要介護者およびその介護者に対して基本的な対応ができる。
  - ⑩ 口腔機能低下症の検査と予防法を説明できる。

## コア・カリキュラム番号

GE-05、IP-01～03、C-1-3-1～3、D-3-1-11-2・5、D-5-7-1～9、D-6-2-1～4、E-5-6-2～5

## 3. 実習内容

- 1) 要介護高齢者に対する口腔衛生管理実習（5点×2項目、10点×3項目＝40点）
  - ・病棟や外部施設における訪問歯科治療にチームの一員として参加するために要介護高齢者に対する口腔衛生管理に必要な基本事項や、問題点とその解決法について理解を深める。
  - ・在宅の要介護高齢者に対する口腔衛生管理の施術。
- 2) 嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査実習（10点×3項目＝30点）
  - ・外来、病棟において、嚥下内視鏡検査および嚥下造影検査それぞれの介助または見学を行う。
  - ・嚥下内視鏡検査に関しては、介助または見学の前にシミュレーターを用いた嚥下内視鏡操作実習を行い内視鏡操作を習得する。

- 3) 直接訓練・間接訓練・口腔衛生管理見学実習 (10点×2項目=20点)
  - ・摂食嚥下障害を有する患者の治療に必要な基本事項や、検査、診断、治療計画の立案、処置、訓練方法、問題点とその解決法について理解を深める。
  - ・病棟における摂食嚥下リハビリテーションの直接訓練・間接訓練・口腔衛生管理を見学する。
- 4) 総括的評価 (習熟度評価試験) (10点×1項目=10点)。
  - ・1)～4)の実習が全て終了後に、コア・カリキュラムに基づいて臨床実習の中で習得すべき技能と態度の項目について学習進度を評価するために、試験を行う。
- 5) オーバーケースについて
  - ・要介護高齢者に対する歯科診療実習、嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査実習、直接訓練・間接訓練・口腔衛生管理見学実習について、同様の点数を与える。
- 6) 評価方法
  - ・ミニマムリクワイアメントを100%達成した場合、基礎点を65点とする。
  - ・習熟度試験、オーバーケース、実習態度を評価し、総合評価を35点満点で評価して、総合評価点とする。

#### 4. 身だしなみ等

常に清潔な白衣、服装を心がけ、頭髪の長さや色にも注意し、高齢者にも清潔と容易に理解されるように十分に配慮すること。また、タバコの臭いなどの悪臭を放つことのないよう、十分に注意すること。改善がみられない場合は実習を中止させることがある。配属日に学生が無断で現れなかった場合も実習中止とする。

#### 5. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
①～④、 ⑧、⑨	形成的評価	知識	教員	病棟 外来実習時	口頭試問
⑤～⑦、 ⑩	形成的評価	知識・技能・態度	教員	病棟 外来実習時 模型実習	観察記録 口頭試問 レポート

#### 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) 習熟度試験(20点)
- 2) オーバーケース(10点)
- 3) 実習態度(5点)

## 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前			小林 琢也 島田 崇史	小林 琢也 米澤 紗織		
午後	米澤 紗織		小林 琢也 島田 崇史	小林 琢也 米澤 紗織		

# 臨床実習Ⅱ：口腔外科学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野） 高橋 美香子 助教、平野 大輔 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

- ・口腔・顎・顔面領域の疾患を有する患者の情報聴取するための知識、技能、および態度を習得することで、診断をして治療計画をたてることができるようになる。
- ・口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察技能についての知識、技能および態度を習得する。
- ・口腔外科の基本的な手技についての知識、技能および態度を習得する。
- ・歯科医師国家試験の問題を解くために必要な知識を習得する。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 医療面接

- ① 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を聴取できる。
- ② 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
- ③ 患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。
- ④ 患者のプライバシーに配慮できる。

### 2) 診察の基本

#### 2-1) バイタルサイン

- ① 血圧、脈拍、体温を測定できる。

#### 2-2) 頭頸部の診察

- ① 顔面の色調の変化、対称性を診察できる。
- ② 下顎の開閉口路の診察ができる。
- ③ 顎関節部の診察ができる。
- ④ 頭頸部の筋肉の診察ができる。
- ⑤ 顎下リンパ節の診察ができる。

#### 2-3) 口唇・口腔内状態の診察

- ① 口唇・口腔の診察ができる。

### 3) 診療録の記載と診断結果・治療方針の説明

- ① 医療面接ならびに診察で得られた情報を診療録に記載できる。
- ② 患者に診断結果と治療方針を説明できる。

### 4) 口腔外科の基本的な手技

- ① 清潔操作を実施できる。
- ② 抜歯（小手術を含む）の器材の準備ができる。
- ③ 外来手術のための手洗いと滅菌グローブの装着ができる。
- ④ 局所麻酔を安全に実施できる。
- ⑤ 普通抜歯を実施できる。

- 5) 粘膜疾患・顎関節疾患を有する患者の診察
  - ① 粘膜疾患を有する患者の診察ができる。
  - ② 顎関節疾患を有する患者の診察ができる。
- 6) 歯科医師国家試験問題を解くために必要な知識の習得
  - ① 主要な症候について原因と病態生理を理解する
  - ② 主要な症候・病態から原因と病態生理を推論し、想定すべき鑑別疾患名を説明できる。
  - ③ 病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解する。
  - ④ 臨床検査結果と疾患の関係を理解する。
  - ⑤ 主要な症候について鑑別診断を検討し、診断の要点を説明できる。
  - ⑥ 患者の服用薬物の歯科治療(局所麻酔、投与薬物)への影響と歯科治療時の対応を理解する。
  - ⑦ 患者の全身状態の評価を理解する。
  - ⑧ 口腔と医科疾患との関連について理解する。
  - ⑨ 医科疾患合併症患者の歯科治療時の注意点を理解する。

### コア・カリキュラム番号

CS-09、CM-01, 02, 03、D-1-2-1、D-2-1-1-2, 3、D-2-2、D-2-3、D-4-1-1, 2、D-4-3-1, 2, 3、D-5-4、D-6-1-3、E-1-1-2, 4、E-1-2-1、E-1-3-1、E-2-1-1-1, 2, 4, 5, 6, 7、E-2-2-2、E-2-3-1, 2, 4, 6、E-2-5-1、E-3-1-2, 3、E-3-2-1, 2、E-4-2、E-4-3-1, 2, 4、E-5-3-5

### 3. 実習内容

- 1) 初診患者の医療面接および診察  
口腔外科の初診患者の医療面接ならびに診察を行う。
- 2) 診療録の記載  
医療面接および診察で得られた情報を診療録に記載する。
- 3) 診断結果と治療方針の説明
  - ① 簡単な症例の診断、治療計画の立案を行う。
  - ② 患者に病状、診断結果ならびに治療方針を説明する。
  - ③ インフォームド・コンセントを得る。
- 4) 口腔外科の基本的な手技の実施
  - ① 抜歯および小手術の器材の準備  
清潔操作で、抜歯および小手術の器材の準備を行う。
  - ② 外来での手術時手洗いおよび滅菌グローブの装着
  - ③ 局所麻酔
    - ・普通抜歯において浸潤麻酔を行う。
    - ・下顎孔伝達麻酔の術式について説明できる。
  - ④ 普通抜歯
    - ・簡単な永久歯の普通抜歯を行う。
    - ・抜歯後の経過観察および処置を行う。
  - ⑤ 縫合と抜糸

- ・普通抜歯（小手術を含む）において縫合処置を行う。
  - ・縫合処置した患者の抜糸を行う。
- 5) 抜歯（小手術を含む）後の処方と注意事項の説明
    - ① 抜歯後の処方箋を作成する。
    - ② 抜歯後の注意事項を患者に説明する。
  - 6) 粘膜疾患・顎関節疾患を有する患者の診察  
粘膜疾患・顎関節疾患の再来患者を外来担当医とともに診察する。
  - 7) 入院患者の処置・手術と管理
    - ① 周術期の患者管理について学習する。
    - ② 教授回診に参加する。
    - ③ 術前の症例検討会に参加する。
    - ④ 全身麻酔手術を見学する。
    - ⑤ 手術後の創傷管理について学習する。
    - ⑥ 入院患者の処置の介助を行う。
    - ⑦ 頭頸部腫瘍センターで手術を見学する。
  - 8) 歯科医師国家試験の過去問題を解く  
歯科医師国家試験の過去問題のプリントを渡すので、各自問題を解いて提出する。

外来、病棟実習初日には簡単なオリエンテーションを行う。

外来実習は午前 8 時に内丸 3 階医局に集合し、朝のカンファレンスに参加する。その後は外来へ移動し、新患もしくは再来の診察、処置の見学もしくは介助を行う。昼の休憩やトイレ以外に外来から離れることは許さない。長時間不在が発覚した時は実習修了を認めない。

病棟実習は午前 8 時に矢巾 5 階医局に集合し、朝のカンファレンスに参加する。その後は 8 階病棟処置室に移動し、入院患者の朝の診察、処置の見学や介助を行う。手術は毎週月曜、木曜、金曜の全日と、第 2、4、5 火曜の午前に行っているため、見学もしくは介助で参加すること。水曜は、朝の処置後に病棟処置室での抜歯などを行うこともあり、また午後 1 時 30 分からは千葉俊美教授による内科回診があるため、参加すること。手術時間の合間、もしくは中止などでの空いた時間がある場合は、内丸外来での見学や自習を指示することがある。また実習中に国家試験の過去問をまとめた課題が与えられるので、時間があるときに課題に取り組み、提出期限までに提出すること。

何かしらの事情で病棟実習が中止になった場合は、基本的に白卒での振替とするが、日程が難しい場合などは、手術見学については録画した手術映像の見学で代用する場合もある。

手術の症例検討会は月曜午後 4 時から内丸 3 階医局と矢巾 5 階医局で行っているため、外来実習、病棟実習時にそれぞれ参加すること。

頭頸部外科実習時には、午前 8 時 30 分に矢巾 5 階頭頸部外科医局に集合し、大橋先生の指示に従って実習すること。

実習修了に必要なケースのみではなく、積極的に多くの症例を見学して自分の目で確認し、今後の歯科医師国家試験に必要な知識と経験を得ることを各自意識すること。



#### 4. 実習にあたっての注意事項

- ① 清潔域と非清潔域の区別を理解し、清潔域、清潔器材を不潔にしないこと。
- ② 患者に対して不用意な発言をしないこと。
- ③ 病棟見学や手術見学では私語は一切しないこと。
- ④ 実習中に具合が悪くなったときは早めに申し出ること。
- ⑤ 集合時間と場所を守り、節度ある行動をすること。
- ⑥ 処置や見学に入る前に担当医に了解を得ること。

#### 5. 診療録の記載法

- ① 患者の担当が決定したら、医療面接記載用紙を準備する。
- ② ライターの指導のもと、患者をユニットに誘導し、医療面接、診察を行う。
- ③ 診療録に全身状態、局所状態を正確に、的確に記載する。誰が読んでも理解できるように記載すること。

#### 6. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ~ 6)	形成的評価 総括的評価	知識・技能・態度 知識	教員	実習中 実習後	レポート 口頭試問
7)	総括的評価	知識・態度	教員	各ケース終了時	レポート 口頭試問

#### 7. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) 自験で医療面接を行った患者、抜歯または小手術の介助を行った患者において、医療面接で得られた情報、行った検査や治療方針についてのレポートとその内容についての口頭試問
- 2) 見学に入った手術の手術所見とその患者の周術期管理についてのレポートとその内容についての口頭試問
- 3) 課題（歯科医師国家試験過去問題のプリント）の提出

## 8. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）【内丸キャンパス】（白樫実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	小松 祐子 平野 大輔	小川 淳 古城 慎太郎	川井 忠 高橋 美香子 鈴木 舟	山谷 元気 小原 瑞貴	古城 慎太郎 星 勲	川井 忠 高橋 美香子 鈴木 舟 星 勲
午後	小松 祐子 平野 大輔	小川 淳 古城 慎太郎	川井 忠 高橋 美香子 鈴木 舟	山谷 元気 小原 瑞貴	古城 慎太郎 星 勲	

臨床実習（Ⅱ）【矢巾キャンパス】（配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	川井 忠 小松 祐子 平野 大輔	小松 祐子 山谷 元気	平野 大輔	古城 慎太郎 小川 淳 川井 忠	川井 忠 小松 祐子	平野 大輔
午後	川井 忠 小松 祐子 平野 大輔	小松 祐子 山谷 元気	平野 大輔	古城 慎太郎 小川 淳 川井 忠	川井 忠 小松 祐子	

# 臨床実習Ⅱ：歯科麻酔学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 筑田 真未 講師

## 1. 教育成果（アウトカム）

歯科麻酔臨床全般における実践的な知識、態度、技能を習得することで、口腔外科手術の全身麻酔、歯科治療時の静脈内鎮静法、外来における疼痛管理症例の管理を理解する。

## 2. 到達目標（SBOs）

- ① バイタルサインについて説明できる。
- ② バイタルサインの測定・評価ができる。
- ③ 生体情報モニタの操作ができる。
- ④ 全身麻酔の術前管理について説明できる。
- ⑤ 麻酔計画について説明できる。
- ⑥ 全身麻酔の導入について説明できる。
- ⑦ 全身麻酔の維持について説明できる。
- ⑧ 全身麻酔の覚醒について説明できる。
- ⑨ 全身麻酔の術中管理について説明できる。
- ⑩ 全身麻酔の介助ができる。
- ⑪ 全身麻酔の術後管理について説明できる。
- ⑫ 静脈内鎮静法について説明できる。
- ⑬ 静脈内鎮静法の介助ができる。
- ⑭ 正しい術式で静脈路確保（マネキン使用）を行うことができる。
- ⑮ 顎・顔面・口腔領域の疼痛治療について説明できる。

## コア・カリキュラム番号

D-1-1, D-1-2, D-2-3, E-1-2, E-1-3, E-2-3

## 3. 実習内容

- 1) 日程：歯科医療センター（内丸）にて3日間（月・水・木）の配属実習  
附属病院（矢巾）にて1日（金）の配属実習
- 2) 全身麻酔・静脈内鎮静法・疼痛治療症例  
附属病院（矢巾）1日配属時に、全身麻酔症例の見学・介助実習を行う。  
歯科医療センター（内丸）の配属実習期間に、全身麻酔術前診察、静脈内鎮静法、疼痛治療症例の見学・介助実習を行う。
- 3) 相互実習  
歯科医療センター（内丸）の配属期間内に、モニタ装着、静脈路確保（マネキン使用）の相互実習を行う。

#### 4) レポート

配属期間中に、実習帳に記載されている課題を提出

#### 5) その他

配属期間内の症例が極端に少ない場合、再配属や白枠を利用した症例の充当がある。  
うる。

### 4. 知識向上施策

全身麻酔、静脈内鎮静、ペインクリニック見学実習が主体となる。

配属期間中に、近年の国家試験問題を実際に解きながら解説することにより、臨床実習で得た学びをより深い知識として定着させる。

国家試験で正答率の低い臨床実地問題の解説を通して、歯科麻酔学の臨床実地問題の正答率向上を図る。

### 5. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
①～⑪	形成的	臨床実習生	教員	配属期間	観察記録
⑫、⑬	形成的	臨床実習生	教員	配属期間	観察記録
⑭	形成的	臨床実習生	教員	配属期間	観察記録
⑮	形成的	臨床実習生	教員	配属期間	観察記録

### 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) レポート課題 15 点
- 2) 口頭試問 20 点

### 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白枠実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	佐藤 健一 筑田 真未		筑田 真未 佐藤 州	佐藤 健一 筑田 真未	佐藤 健一 筑田 真未	
午後	佐藤 健一 筑田 真未		筑田 真未 坂野上 和奏	佐藤 健一 筑田 真未	佐藤 健一 筑田 真未	

# 臨床実習Ⅱ：歯科放射線学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）泉澤 充 特任教授

## 1. 教育成果（アウトカム）

放射線関連の検査種、方法、手技を理解、習得し、基本となる正常像の読影ならびに疾患の弁別に必要な技量、読影能力を習得することで鑑別診断ができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

- ① 口内法撮影の手技（二等分法と平行法、正放線投影と偏心投影、咬翼法、咬合法）を実施できる。また、X線の性質を理解し口内法撮影で起こりうる失敗とその原因について説明できる。
- ② 写真処理（現像、定着、水洗、乾燥）について理解し、自動現像機による写真処理が実施できる。また、CCD、IPによるデジタルエックス線撮影の手技を理解、実施し、画像表示やデンタルマッピング（14枚法）の方法を理解、実施できる。
- ③ CBCT、MDCT、MRIの撮影方法、表示条件、断層像を理解し、正常解剖像を説明できる。また、CBCT画像においてDental MPR画像の再構成を実施できる。
- ④ CBCT、MDCT、MRI、核医学検査(RI)、超音波検査(US)における画像形成原理と検査の適応について説明できる。
- ⑤ パノラマX線撮影を教員の指導のもと実施できる。また、パノラマX線撮影で起こりうる失敗とその原因について説明できる。
- ⑥ 様々な放射線検査の画像所見をもとに鑑別診断を列挙できる。
- ⑦ 疾患別に特徴的な画像所見を列挙できる。
- ⑧ 鑑別診断を行う上で必要となる画像診断法を選択できる。

## コア・カリキュラム番号

G-1-1)①、G-1-2)①、G-2③

## 3. 実習内容

- 1) 口内法撮影実習（歯科放射線学分野第1臨床実習室117号室および外来）

### （臨床実習Ⅱ配属）

事前学習内容をwebclass上に提示するので学習内容をレポートし、Webで提出、口内法撮影実習時に持参する。提出は実習の前週までに行うこととする。

実習室

- ① シミュレーターにおいて口内法デンタルエックス線撮影の流れ、方法を確認する（ミニマムは無いが、その後の相互撮影実習での成果にかかわるためすべての部位で確認すること）。
- ② 院内生相互で14枚法によるデンタル撮影（片側8枚の撮影がミニマム）および咬翼法撮影および咬合法撮影（それぞれ1枚がミニマム）を実施する。実習は2名一組を基本とする。

## 外来自験

- ③ 外来にて教員の指導のもと 自験患者のデンタル撮影を行う（ミニмумは1枚）。
- ④ 相互、自験撮影のオーバーケースはデンタル写真1枚につき2点を加算する。
- ⑤ 口内法撮影評価試験を実習後期（白枠）に行う（2人あるいは3人で行い、10点のミニмум）。80点以上（100点満点）を合格とする。③にて自験患者撮影を5枚以上行った場合は口内法撮影試験免除とする。

## 2) 施設見学実習（臨床実習Ⅱ配属）

- ① CBCT、MDCT、MRI、核医学検査(RI)、超音波検査(US)の検査施設を見学し、教員による示説を受ける。（矢巾内の施設については動画学習にて振り替える可能性あり）
- ② 実習後に webclass 上で課題提示された内容について「見学実習レポート」を作成し、指示された日時までに webclass を使い提出する。

## 3) 読影実習（歯科放射線学分野第2臨床実習室120号室）（臨床実習Ⅰ、Ⅱ配属～白枠）

- ① パノラマエックス線写真をはじめとする口外法単純エックス線撮影の画像を観察し所見を読影し理解する。（臨床実習Ⅰから引き続き）
- ② CBCT、CT撮影、MRI撮像の原理および撮影された画像の表示条件、断層像を理解する。（臨床実習Ⅰから引き続き）
- ③ CTの水平断、冠状断写真(各2枚)とDental MPR画像を観察、トレースし解剖学的構造を説明する。（臨床実習Ⅰから引き続き）
- ④ 読影実習では顎顔面口腔領域疾患の各種画像を読影し、所見を適切に理解した上で診断名と鑑別診断名を列挙する。また、症例の概要と診断に至った理由を教員に説明する。
- ⑤ 読影実習は15症例（典型例穴埋め式5例、自由記載10例）をミニмумリクワイアメントとする。（臨床実習Ⅱ配属）
- ⑥ 16症例目以降はオーバーケースとして1症例につき2点を加算する。（臨床実習Ⅱ白枠）
- ⑦ 読影実習のミニмумリクワイアメント終了後、総括的評価として読影評価試験を行う。読影評価試験は臨床実習Ⅰの正常エックス線解剖と臨床実習Ⅱの疾患読影の内容で実施する。読影評価試験では80点以上（100点満点）を合格点とする。
- ⑧ 「胸部エックス線写真の基本」は配属時の金曜午前の枠で教授よりレクチャーを受ける。（臨床実習Ⅱ配属）

※読影実習のオーバーケースを多く実施することによって臨床実地問題の読影能力を習得することが可能となるため、多くのオーバーケースを実施できるように努力すること。

#### 4. 実習にあたっての注意事項

- ・ 口内法撮影実習、疾患読影実習を受ける学生はケーシー着用のうえ午前は8:50、午後は13:30に、施設見学実習では指定の時間に歯科放射線科実習室（120号室）に集合する。長い白衣の持参、着用は可とする。
- ・ 疾患読影実習には筆記用具、教科書、アトラス等の参考書を持参すること。
- ・ 胸部エックス線写真の基本については基本的に中座を認めないものとする。
- ・ 白桦実習はアポイント帳に記載の上、ライターに確認すること。

#### 5. 学習方略：第5学年臨床実習学生を対象

SBOs	種類	人的資源	物的資源	時間	備考
①、③、 ④、⑤、 ⑦	相互実習、自験	担当教員 学生	放射線実習室 外来診療室 教科書、実習書	診療時間内	
②、⑥	見学	担当教員 学生	外来診療、検査室 実習書	診療時間内	

#### 6. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
①、③、 ④、⑤	総括的評価 客観的評価	知識 技能 態度	担当教員 診療放射線技師	実習前期を中心として 撮影評価試験は後期	・ 観察記録 ・ 事前学習 ・ 口頭試問
⑦	総括的評価 客観的評価	知識 技能 態度	担当教員	実習すべての時期を通して行うが、読影評価試験はミニマム達成後に行う。	・ 観察記録
②、⑥	形成的評価	知識	担当教員	実習前期	・ レポート提出、 評価 ・ 口頭試問

#### 7. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) 口内法撮影試験
- 2) 正常解剖読影試験
- 3) 疾患読影試験

## 8. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく
午後	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	泉澤 充 坂本 りく	



# 臨床実習Ⅱ：歯科矯正学

ライター長：口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野） 菊池 恵美子 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

不正咬合の診察、検査、分析や矯正装置の知識を習得することで矯正歯科治療における治療計画の立案ならびに患者への説明ができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 担当患者の見学、介補、実技実習

- ① 患者の矯正歯科治療の流れを理解し、説明できる。
- ② 患者に適確な診療を実施できる。
- ③ 患者の資料の分析結果を説明できる。
- ④ 診療に必要な器材を準備できる。
- ⑤ 矯正用器械・器具の使用方法について説明できる。
- ⑥ 矯正装置の使用方法について説明できる。
- ⑦ 矯正治療の概略について説明できる。
- ⑧ 矯正歯科治療中の患者のブラッシング指導が実施できる。

### 2) 症例検討会の参加

- ① 症例の概略を説明できる。
- ② 症例の資料の分析結果を説明できる。
- ③ 症例の診断と予後判定を説明できる。
- ④ 診断に基づいた治療計画を説明できる。
- ⑤ 上記の項目について質疑応答ができる。

### 3) 到達度試験

- ① 頭部エックス線規格写真の計測点について理解し、説明できる。
- ② 頭部エックス線規格写真の計測平面、計測項目を理解し、説明できる。

### 4) 小テスト・口頭試問

- ① ・顎顔面、歯列と咬合の発育と全身成長の関わりについて説明できる。  
・正常咬合の概念と成立の条件、不正咬合の種類、分類と原因について説明できる。
- ② ・不正咬合の診療、検査、分析について説明できる。  
・矯正用材料とその特性、矯正用器械器具、装置について説明できる。
- ③ ・矯正治療の診断、治療計画の立案について説明できる。  
・矯正力と生体反応、固定について説明できる。
- ④ ・代表的な不正咬合の治療法について説明できる。  
・保定、矯正治療に伴う偶発症について説明できる。

## コア・カリキュラム番号

D-2-1-1, D-2-2, D-5-5, E-1-1-2～5, E-2-1-1, E-2-2-1, 4, 6, E-5-2-3, E-5-4

### 3. 実習内容

#### 1) 担当患者の診療見学、介補、実技実習

- ・下記の15ケースの処置内容の提出を必須とする。

混合歯列期症例（機能的矯正装置、機械的矯正装置、顎外固定装置）5ケース（バンドを用いた装置の症例を最低1ケース含むこと。）

成人矯正症例 4ケース（バンドを用いた加强固定装置、歯科矯正用アンカースクリューを用いた症例をそれぞれ最低1ケース含むこと。）

顎変形症症例 3ケース（術前矯正の症例を最低1ケース含むこと。）

口唇口蓋裂症例 2ケース（乳幼児期、学童期～成人期の症例をそれぞれ1ケースずつ。）

睡眠時無呼吸症候群症例 1ケース

- ・診療後、処置内容記録を提出し、指導教員とショート・ディスカッションを行う。必要に応じてレポートを課す。
- ・実技実習として学生の習熟度に応じて、診療前の器械・器具の準備、診療内容、治療経過の説明、装置使用時の注意事項の説明、ブラッシング指導、ブラケット周囲のクリーニング、診療の介補を実施し、適切な実技の実施がなされたと指導教員が判断した際にケースとして認める（最低10ケース）。

#### 2) 症例検討会の参加

- ・最低1回
- ・日 時：木曜日 17：10 開始
- ・場 所：歯学部 4F 第1講義室（変更もあり得る）  
症例検討会参加予約表に参加日を記入すること。

#### 3) 到達度試験

- ・2回
- ・日 時：配属時と白卒時それぞれ1回ずつ行う。ライター長と相談の上、日時を決定する。
  - ① 頭部エックス線規格写真の計測点
  - ② 頭部エックス線規格写真の計測平面・計測項目
  - ③ Tweed の分析
  - ・90%以上の正解率で合格とし、合格点に満たないものは再試験とする。

#### 4) 小テスト

- ① ・顎顔面、歯列と咬合の発育と全身成長の関わり
    - ・正常咬合の概念と成立の条件、不正咬合の種類、分類と原因
  - ② ・不正咬合の診察・検査、分析
    - ・矯正用材料とその特性、矯正用器械器具、装置（製作法を含む）
  - ③ ・矯正治療における診断および治療計画の立案
    - ・矯正力と生体反応、固定
  - ④ ・代表的な不正咬合の治療法
    - ・保定、矯正治療に伴う偶発症
- 90%以上の正解率で合格とする。小テストが合格点に満たないものにはレポートを課し、その後再試験とする。詳細についてはライター長の指示に従うこと。

#### 4. 実習にあたっての注意事項

- ・常に清潔な身だしなみと服装を心がける。臨床実習にふさわしくないと判断した場合、実習を中止する場合もあるので十分に注意する。
- ・矯正歯科診療室（診療室）への入退室時は受付からではなく、常に診療室横の出入り口を使用すること。
- ・診療室で患者を待つ場合、出入り口脇のファイルキャビネット前に整列して待機すること。
- ・持参した実習帳等は、出入り口正面キャビネットに設けた専用棚を使用し、見学時には両手を自由な状態にしておくこと。
- ・ユニットの診療準備、患者の誘導、見学、介補、後片づけ等は、必ず指導教員あるいは担当医の指示に従うこと。
- ・実習時間内に無許可で診療室を離れた場合は、欠席扱いにすることがある。
- ・指導教員あるいは担当医の指示なしに患者のファイルやエックス線写真、その他の資料を勝手に閲覧したり診療室から持ち出してはならない。
- ・守秘義務を遵守すること。
- ・実習日から1週間以内に実習帳に処置内容を記載し、指導教員の評価を受けること。  
正当な理由無く遅れた場合には、実習の回数に算定しない。
- ・矯正用材料、器械・器具、装置の試験に参加する際も、予習をしっかりとくること。予備知識が明らかに欠落している場合、参加を実習点数に算定しない。

#### 5. 矯正歯科における臨床実習の評価法

- 1) 小テストならびに口頭試問により知識を評価する。
- 2) 最終評価として患者の口腔内、顎顔面を診査し、患者および保護者に現状と今後の治療方針についての説明を OSCE 形式で評価する。

#### 6. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ①～⑧	形成的評価	知識・技能・態度	指導教員	自験前後	レポート 口頭試問
1) ②④⑤⑧	形成的評価	知識・技能・態度	指導教員	自験後	実技技能試験
2) ①～⑤	形成的評価	知識・態度	指導教員	症例検討会参加後	レポート 口頭試問
3) ①②	形成的評価	知識	教授	実習期間中	習熟度試験
4) ①～④	形成的評価	知識	指導教員	実習期間中	習熟度試験 口頭試問 レポート

## 7. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) 診療見学、介補、実技実習における習熟度およびオーバーケース
- 2) 小テストの試験結果
- 3) 到達度試験の試験結果

## 8. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	間山 寿代 飯塚 康之	飯塚 康之 菊池 恵美子	飯塚 康之 菊池 恵美子	佐藤 和朗 桑島 幸紀	桑島 幸紀 菊池 恵美子	桑島 幸紀 菊池 恵美子
午後	桑島 幸紀 飯塚 康之	飯塚 康之 菊池 恵美子	桑島 幸紀 菊池 恵美子	間山 寿代 菊池 恵美子	飯塚 康之 菊池 恵美子	

# 臨床実習Ⅱ：小児歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）齊藤 桂子 助教

## 1. 教育成果（アウトカム）

小児歯科診療に必要な診査、診断、治療計画、歯科的対応、処置法、口腔管理の手順について基本的な知識、技術および態度を修得することで小児歯科診療をスムーズに行えるようになる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 外来実習

- ① 患児の誘導ができる。
- ② 小児の口腔内診査の項目を実施できる。
- ③ 歯列、咬合および歯の発育と異常が理解できる。
- ④ 治療の準備ができ、選択した器材について説明することができる。
- ⑤ 治療の手順について理解することができ、介助ができる。
- ⑥ 小児または保護者に口腔衛生指導を実施できる。
- ⑦ フッ化物塗布を実施できる。
- ⑧ 予防填塞を説明することができる。
- ⑨ 小児または保護者に治療後の説明（注意点なども含む）や予後について説明ができる。
- ⑩ 小児歯科三角を説明できる。
- ⑪ 小児患者への歯科的対応ができる。
- ⑫ ラポールの形成について説明ができる。
- ⑬ 見学内容を迅速に学生用診療録に記載することができる。

### 2) 齶蝕治療の診断・治療計画の立案

- ① デンタルエックス線画像の読影ができる。
- ② 診断し、治療法を選択し説明できる。
- ③ 治療に用いる薬剤・材料を選択し、その根拠を説明できる。
- ④ ブロック治療を説明できる。
- ⑤ 適切な治療順序を説明できる。
- ⑥ 治療後の口腔衛生管理を説明できる。
- ⑦ 定期健診について説明できる。
- ⑧ 小児の歯科的対応法について説明できる。

### 3) 到達度試験・習熟度試験・口頭試問

- ① 到達度試験・習熟度に合格できる。
- ② 口頭試問に合格できる。

## コア・カリキュラム番号

C-2-1, 2, 3, 4, 5, 6、D-2-1, 2、D-5-6、E-1-1、E-2-1-2、E-5-5

### 3. 実習内容

#### 1) 外来実習

実習形態：配属3日＋白枠

集合場所：小児歯科外来

集合時間：(午前) 8時30分 (午後) 13時00分

実習内容：下記について外来実習を行う。

#### 1) 外来実習

##### ① 小児の治療

「修復・歯内療法」「誘導・外傷・その他」「健診」についてそれぞれ1症例について、ライターの前で見学を行い、学生用診療録に必要事項を記載し2週間以内にライターの検印を受けること。

見学ケース：配属期間内に5症例について、見学を行いライターの検印を受けること。なお、症例内容については問わない。

- ② 定期健診：「歯面清掃」「ブラッシング指導」「フッ化物塗布」をそれぞれ1症例ずつ自験すること。自験終了後、別紙の学生用診療録に必要事項を記載し、2週間以内にライターの検印を受けること。「ブラッシング指導」に関しては、リーフレットを使用するので、配属期間までにリーフレットを作成しておくこと。

配属期間内に実施できない場合は、白枠期間内にアポイントを取得し行うこと。

#### 2) 課題

- ① リーフレット作成：小児患者向けの歯磨き指導用リーフレット作成する。
- ② 到達度試験：配属期間内に到達度試験を実施する。試験の範囲は、臨床実習Ⅰにて提示する。
- ③ 知識向上施策として、2つの課題に関する学習を行い、評価を受けること。

##### 課題①「歯髄処置」 課題②「外傷」

上記の課題に対し、下記の項目について評価を行う。課題については臨床実習Ⅰで提示する。

- ・レポート：課題に対するレポートを作成すること。
- ・習熟度テスト：課題範囲の習熟度テスト（プレ（ICT学習前に実施）・ポスト）を行う。問題数は、20問～30問程度を予定し、ポストテストは、合格点は9割以上とする。
- ・口頭試問①：課題に関する動画・写真を視聴し、口頭試問を受けること。

\*知識向上対策として外来実習、課題に関しては下記の流れで実習を行う予定としている。

事前学修（レポート）→到達度試験（合格点70%）→診療見学前：電子カルテでの情報の確認→見学→フィードバック→見学症例に関するレポートの作成→フィードバック→配属最終日：口頭試問①→習熟度テスト

### 3) 臨床習熟度評価

臨床習熟度評価として、「口頭試問②」を行う。時間はおよそ1時間程度を予定している。別に配布している試問テーマより課題を選択し作成すること。12月までに予約を取得し、終了させておくこと。期限を過ぎた場合には、別に課題を追加する可能性がある。

### 実習にあたっての注意点

- ・配属実習を休むと、進行に影響が出るので出来るだけ休まず臨むこと。
- ・配属期間中に他科の実習で抜ける場合には、ライターに事前に伝えること。
- ・配属期間内に実習が終了しない場合は、白枠期間を利用して実習を進めること。
- ・白枠時は、1日2名までの学生を受け入れる。個別にアポイントを取得すること。
- ・進行が遅い学生に関してはライターから連絡が入ることがあるので、その際はライターの所に集合すること。
- ・患児とその保護者に好印象を与えるような服装、髪形、態度で実習に臨むこと。

### 4. 評価方法

SB0s	目的	対象	評価者	時期	方法
1) ①	形成的評価	態度	教員	臨床実習中	観察記録
1) ②～⑬	形成的評価	技能・態度	教員	臨床実習中	観察記録
1) ②～⑬	総括的評価	知識	教員	臨床実習中	口頭試問
1) ①～⑬	形成的評価	技能・態度	教員	臨床実習中	観察記録 自験技能試験
2) ①～⑧	形成的評価	知識・態度	教員	実習期間中	口頭試問 観察記録
3) ①	総括的評価	知識	教員	実習期間中	試験
3) ②	総括的評価	知識	教員	実習期間中	口頭試問
1) ～ 3)	形成的評価	知識	教員	後期試験	多肢選択試験

### 5. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) 配属実習中の際の外来見学・自験症例に対する積極性
- 2) 配属実習時に提出する課題の提出状況と内容
- 3) 口頭試問の評価

## 6. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（白桦実習・配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	齊藤 桂子 橋口 大輔	橋口 大輔 齊藤 桂子	橋口 大輔 齊藤 桂子	齊藤 桂子 橋口 大輔	齊藤 桂子	橋口 大輔 齊藤 桂子
午後	齊藤 桂子 橋口 大輔	橋口 大輔 齊藤 桂子	齊藤 桂子 橋口 大輔	齊藤 桂子 橋口 大輔	齊藤 桂子	



# 臨床実習Ⅱ：障害者歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野） 熊谷 美保 准教授

## 1. 教育成果（アウトカム）

障害者歯科の臨床を体験することにより、障害者における口腔内の疾病の予防および治療について具体的に述べることができる。

## 2. 到達目標（SBOs）

定期診査、口腔衛生指導

- ① 障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を理解し安全面に配慮しながら、ユニットへの誘導や移乗の介助ができる。
- ② 診査・指導中の行動調整法の理論を理解し、円滑に進めることができる。
- ③ 手順を理解し、必要な準備ができる。
- ④ 口唇・口腔内状態の診察ができる。
- ⑤ 口腔衛生指導ができる。
- ⑥ 分かりやすい言葉使いと聞き取りやすい話し方ができる。
- ⑦ 患者の不快感に配慮した操作や声かけができる。

## コア・カリキュラム番号

D-5-8-1～5

E-5-7-1, 2

## 3. 実習内容

配属実習内に以下の症例について実習を行う。配属期間中に症例がない場合は白枠を利用する。

定期診査の自験（3症例）

## 4. 実習にあたっての注意事項

- 1) 患者の誤解や恐怖を招かぬよう、言動や行動に注意を払う。
- 2) 患者やその家族と接するときは、障害を有する者とその家族の気持ちを十分に思いやる。

## 5. 評価方法

SB0s	目的	対象者	評価者	時期	方法
①～⑦	形成的	技能・態度	教員	臨床実習中	観察記録
①～⑦	形成的	知識	教員	診療実習終了時	レポート
①～⑦	総括的	知識	教員	診療実習終了時	総括的評価 口頭試問
①～⑦	総括的	知識	教員	前期・後期試験	多肢選択試験

## 6. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) 口頭試問の結果をもとに評価を行う

## 7. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	熊谷 美保 菊池 和子		熊谷 美保 菊池 和子		熊谷 美保 菊池 和子	
午後	熊谷 美保 菊池 和子		熊谷 美保 菊池 和子		菊池 和子	

# 臨床実習Ⅱ：内科学

ライター長：口腔医学講座（関連医学分野） 千葉 俊美 教授

## 1. 教育成果（アウトカム）

内科における診断アプローチと治療戦略の立て方を理解する。また、歯科医師として必要な診察技術と内科救急の基礎的手技を修得する。

## 2. 到達目標（SBOs）

ユニット名 一般目標	到達目標
外来診察室において内 科的診察法と診断戦略 について理解する。 また、歯科医師として必 要な診察技術と内科救 急の身体所見の習得と 基礎的手技を修得する。	① 外来診察室において問診法および内科的診察法について説明できる。 ② 歯科医師として必要な診察技術の取得。 ・ バイタルサインについて説明できる。 ・ 脈拍、血圧測定、聴診（I音、II音）ができる。 ・ 頭頸部、胸腹部の身体的所見を説明できる。 ③ 自己の心電図所見を説明できる。 ④ 自己の血液検査、生化学、HBs抗原、HBs抗体所見について説明できる。 ⑤ 内科救急の身体所見の習得とBSLの手技（AEDなど）を説明できる。

## コア・カリキュラム番号

E-2

## 3. 実習内容

### ■実習概要

外来で脈拍、血圧測定、聴診（I音、II音）、頭頸部、胸腹部の身体的所見についての相互実習を行う。

### ■集合場所・時間：歯学部1階内科診療室・実習予定日の午後2時集合

☆問診法および歯科医師として必要な診察の実践（必須—\*実習加算点）

☆心電図記録（必須—\*実習加算点）

・ 実習1週間前の月曜日午後4時～5時

・ 標準12誘導心電図記録：本院循環機能検査室（2F）

☆自己採血（必須—\*実習加算点）

・ 実習の1週間前の月曜日 午後2時～4時 本院採血室に検査依頼書を持参

・ 採血場所：本院 採血室（2F）

・ 検査依頼書記入は、ガイダンスで説明する。

#### 4. 評価方法

SBOs	目的	対象	評価者	時期	方法
①～⑤	形成的評価	知識 技能 態度	教員 (ライター)	実習時 *レポートのみ実習後	観察、口頭試問、 レポート
②、③	形成的評価	技能 態度	教員 (ライター)	実習時	観察
④	形成的評価	知識 知識	教員 (ライター)	実習時	口頭試問
②、④	形成的評価	知識	教員	後期試験	臨床実習試験 (多肢選択試験)

#### 5. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について35点満点で評価する。

- 1) バイタルサインについて説明できる。聴診（I音、II音）ができる。頭頸部、胸腹部の身体的所見を説明できる。
- 2) 自己の心電図所見を説明できる。
- 3) 自己の血液検査、生化学、HBs抗原、HBs抗体所見について説明できる。

#### 6. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前						
午後	千葉 俊美					

# 臨床実習Ⅱ：臨床薬学

ライター長： 薬剤部 和久井 珠里 薬剤長

## 1. 教育成果（アウトカム）

医薬品の取り扱いに関する知識を整理し、医薬品の適正使用に必要な情報の収集方法を習得する。また処方箋を正しく作成することができ、有効かつ安全な薬物療法を行うための注意事項を認識できる。

## 2. 到達目標（SBOs）

### 1) 医薬品の取り扱い

- ① 医薬品の分類、保管方法などを説明できる。
- ② 法的規制のある医薬品（毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬、特定生物由来製品など）の取扱いに係る規定について説明できる。

### 2) 医薬品情報

- ① 医薬品添付文書の法的位置づけや記載事項について説明できる。
- ② 医薬品に関する情報の入手方法を説明できる。
- ③ 健康被害救済制度について説明できる。

### 3) 歯科繁用医薬品

- ① 解熱鎮痛薬、抗生物質、口腔用剤など歯科領域で使用する主な医薬品について、種類や特徴などを説明できる。
- ② 妊婦・授乳婦、小児、高齢者など特別な配慮が必要な患者において、薬剤の選択や投与方法に適切な対応ができる。

### 4) 処方箋の書き方

- ① 処方箋の記載事項を説明できる。
- ② 処方箋を正しく書くことができる。
- ③ 電子カルテで処方オーダーができる。

### 5) チーム医療における薬剤師との関わり

- ① 薬剤師の業務や役割について説明できる。
- ② 歯科用院内製剤の種類と特徴を説明できる。

### 6) 歯科医師による服薬指導

- ① 歯科専用医薬品の使用方法を説明できる。
- ② 持参薬、お薬手帳の確認の要点を説明できる。
- ③ 処方薬の効能・効果、用法・用量、使用上の注意を説明できる。

## コア・カリキュラム番号

A-6 , C-1-3 , D-1-2 , D-2-1

### 3. 実習内容

\*内丸 MC 薬剤部で1日間の実習を行う。

\*医薬品の取り扱い、医薬品情報、歯科常用医薬品、処方箋の書き方・オーダの仕方、処方の薬剤選択について、スライドを用いた講義とシミュレーション実習を行う。

SBOs	種 類	人的 資源	物的資源		時 期	備 考
			場所	媒体		
1) ①～② 2) ①～③ 3) ①～②	講 義	ライター 学 生	薬剤部	実習書 スライド	臨床実習Ⅱ	1グループにつきライター 1名。
4) ①～③	講 義 シミュレーション実習	ライター 学 生	薬剤部	実習書 スライド 電子カルテ	臨床実習Ⅱ	
5) ①～②	講 義 見 学	ライター 学 生	薬剤部	実習書 スライド	臨床実習Ⅱ	
6) ①～③	講 義 シミュレーション実習	ライター 学 生	薬剤部	実習書 患者用指導箋	臨床実習Ⅱ	

### 4. 評価方法

SBOs	目 的	対 象	評価者	時 期	方法
1) ①～② 2) ①～③ 3) ①～② 4) ①	形成的	知 識 態 度	ライター	臨床実習 臨床実習Ⅱ 実習後 1週間以内に提出	観察記録 レポート
4) ②～③	形成的	知 識 技 能	ライター	臨床実習Ⅱ	観察記録
5) ①～②	形成的	知 識 態 度	ライター	臨床実習Ⅱ	観察記録
6) ①～③	形成的	知 識 技 能 態 度	ライター	臨床実習Ⅱ	観察記録
1) ～ 6)	形成的	知 識	ライター	臨床実習Ⅱ	到達度試験

## 5. 評価基準・配点等

臨床実習の到達度評価は以下の項目について 35 点満点で評価する。

- 1) レポート提出 5 点
- 2) 到達度試験 30 点

## 6. 実習担当者

臨床実習（Ⅱ）（配属実習）・・・5月1日～2025年2月28日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前			和久井 珠里 牧口 礼			
午後			和久井 珠里 牧口 礼			